

ぶらり 台湾

5泊6日



台北・九份・北投温泉
2018/05/17~22

台湾グルメ最高！何を食べても美味！

ただし一つだけハズレがあります（正解は本文にて）



目次

[この本について](#)

[台北に妻と遊びに行くことを決定](#)

[プランと日程を決定](#)

[事前の準備](#)

2018年5月17日(木)

[移動日](#)

[京成線で成田空港まで移動](#)

[搭乗前に早めの夕食](#)

[桃園空港に到着](#)

[ホテルに移動しチェックイン](#)

[台北の初日終了](#)

2018年5月18日(金)

[西門町の朝](#)

[台湾アニメイトへ](#)

[足マッサージ](#)

[とらのあな台北店](#)

[鼎泰豊（ディンタイフォン）へ](#)

[鼎泰豊の点心](#)

[誠品書店とFGO](#)

[101 ビルのフードコート](#)

[ふたたび東門駅へ](#)

[フライデーナイトマジック](#)

[2日目終了](#)

2018年5月19日(土)

2 [朝の屋台めし](#) 15

3 [同人誌即売会 PF28 へ](#) 15

3 [フードコートで昼食](#) 17

[剣潭でマッサージ](#) 17

[士林夜市](#) 18

4 [アーケードで遊ぶ](#) 19

4 [地下美食街](#) 20

5 [ホテルに戻る](#) 21

2018年5月20日(日)

6 [故宮博物院と九份](#) 22

[故宮博物院](#) 22

[台北駅地下街で昼食](#) 24

7 [九份へ](#) 24

7 [安宿にチェックイン](#) 25

8 [九份旧市街](#) 26

9 [いろいろ飲み食い](#) 26

9 [阿妹茶酒館（例のアレ）](#) 28

10 [旧市街を出て宿に戻る](#) 29

11 [ファミマで夕食](#) 30

2018年5月21日(月)

13 [北投温泉の日](#) 31

14 [早朝の九份](#) 32

台北市内に戻る	33	2018年5月22日(火)	
足マッサージとそごうの昼食	34	帰国日	40
北投温泉へ	35	M R Tで桃園空港へ	41
周囲を散策	36	桃園空港フードコートで間食	42
CoCo 壱番屋カレー味ポテトチップ	37	出国の列	43
大戸屋で夕食	38	帰国	43
夜のお買い物	38		
個室内で温泉	39		

この本について

本書は2018年5月17日（木）～22日（火）にかけて台北に夫婦での観光旅行に行ってきた際の記録です。現地の金額表記は原則として元（台湾元、台湾ドル）で行いました。為替レートでは1元=3.7円くらいだったようです。

台北に妻と遊びに行くことを決定

筆者はカードゲーム「マジック・ザ・ギャザリング」の大会で遊ぶために1年間に何度も海外に遊びに行っているわけですが、基本は妻を置いての1人旅です。過去には一度だけ妻と一緒にいったことがある（2014年のクアラルンプール）ものの、基本的に金土日は自分が大会に参加するため妻を放置しなければなりませんし、さらに自分の大会の日程に妻のイベント参加のスケジュールの空きがあまり合わないことが多かったのです。

しかしながらそれまで勤めていた会社を辞めたため少々時間ができていた2018年4月にバニラエアの格安セール情報をネットで見た際に、この2年は台北に行っていないことに気がついたため「マジックの大会が無くても台北に遊びに行こうかなあ」と考え、さらに「それなら妻の都合の良い日程を選んで行けるな」と気がつきました。

そこで妻に打診すると「行きたいな」という返事が返ってきたため、妻のスケジュールを確認のうえで夫婦で台北旅行をすることにしました。

プランと日程を決定

筆者は台北には過去に5回ほど行っておりますが、基本はマジックの大会に参加がてらの半日程度の市内観光しかしておらず「台北市」から外には出ていません。このため今回は台北市の観光ガイドで定番の九份や北投温泉にも行くことにしました。

さらに5月19日～20日に台北で開かれる同人誌即売会（Fancy Frontier※1のPF28）にも参加することも絡めたうえで、基本日程も以下のように決定しました。

※1 <http://www.f-2.com.tw/index.php>

2018年5月17日	木	移動日。
2018年5月18日	金	終日、台北市内観光。
2018年5月19日	土	終日、台北市内観光。PF28開催中。
2018年5月20日	日	PF28開催中。午後に九份に移動し観光。九份に宿泊。
2018年5月21日	月	台北市に戻り、新北投に移動し観光。新北投に宿泊。
2018年5月22日	火	移動日。

この計画に沿ってバニラエアで航空券を買いました。安く上げるため木曜の深夜に台北に着く便を選択した結果、荷物増量オプションも加えても2人で46840円の安さです。

さらに西門町の宿を木曜～日曜、九份の宿を日曜1泊、新北投の宿を月曜1泊で確保。

事前の準備

あとは上記の基本スケジュールに沿って行きたい場所などを考慮して当日の予定を立てていきます。基本は当日の状況で中止しても構わない程度のものまで含めて調査。

さらにホテル周辺の地図をプリントアウトしたり、現地の通信用の亜太電信のプリペイドSIMを2セット購入して当日を待ちました。

2018年5月17日（木） 移動日

11時半に妻と家を出る。新小岩駅までの途中でタクシーを拾えたので乗車。総武線へ。フライトは今夜であったものの、今日はひとつ池袋で開催されていた椎名高志せんせいの原画展を覗いてから行くことにしたのでした。

このため池袋駅でスーツケースをコインロッカーに入れ13時に会場のあるマルイそばのカレー屋に入り、昼食。それから原画展を堪能（本書の主旨ではないので省略）してから14時には会場を出ます。

暑かったので時間潰しにコメダに入ってカキ氷をのんびり楽しんでから15時に店を出てデパ地下で今夜の夕食のサンドイッチを買ってから荷物を回収してまずは日暮里まで。

京成線で成田空港まで移動

会社勤めの時は新小岩駅からJRを中心にした生活をしていたこともあって、これまでは成田空港に行くには総武線快速の「エアポート成田」1本で行くのが常でした。ところが今回は事前に空港への移動手段を調べるとなぜか「エアポート成田」が発見できません。おまけに総武線快速の1本で乗り換えなしで成田空港駅まで行ける筈なのに乗り換え案内サイトは「船橋で乗り換え」「津田沼で乗り換え」の候補ばかり勧めてきます。

これはどういうことなのだろうかと調べてみると、どうやら「総武線の快速は時間ばかりかかる」「京成線のほうが早くて安い」「新小岩からは船橋・津田沼で乗り換えどころか日暮里まで行ったほうがマシなくらいで」「とうとうエアポート成田という名称は、誰も利用しなくなったので3月18日のダイヤ改正で**廃止**された」という事実が判明。

このため今回は池袋からであるのを幸い、総武線快速を使わずに日暮里から京成線で成田空港まで行くというルートを試してみることにしたのでした。

そして15:59に日暮里を出る京成特急に乗車して、17:13には空港第2ビル駅に到着。確かにこれは早い。これまで連絡が悪いと2時間くらいかけていたのは何だったのか。ていうかこの京成は青砥駅も通るので、帰りはひとつ京成を利用して青砥からタクシーで自宅に帰るプランを試してみることになりました。

搭乗前に早めの夕食

空港駅からシャトルで第3ターミナルまで移動すると17時半。まだバニラエアでの搭乗手続きの開始（2時間前）まで時間があります。

今回は台北駅に着くのが深夜であり、着くなりATMで時間を使わずにホテルに移動したかったため、当座の現金は成田空港で両替しておくことにしたのですが空港でのレートは手数料込みで4.2。**たけえ！**（この日の為替レートは3.7くらいでした）

しかし選択肢もないので10080円を出して2400円を獲得。

さらに早めの夕食にしてしまうことにしてフードコートに入って、飲み物を買ったうえで池袋東武地下のメルヘンで買ったサンドイッチを妻とmgmg。

18:54に搭乗手続き開始のアナウンスが開始されるも、当然の長蛇の列が短くなるまでは近くでしばらく待ってから19:15に列に並び、19:36にチェックイン手続き完了。

預けた荷物にチェックの結果問題があったなら呼び出すので10分ほどはセキュリティに行かずにこのままこの辺で待てと言われたので、本屋で時間を潰します。

19:45にセキュリティの列に並んで20:06には通過して、20:08にはイミグレ通過。

20:15にはゲート前に並び、20:22には搭乗バスに乗り、20:55には搭乗・着席。

桃園空港に到着

機内で1時間時計を戻したのち（ここからは台湾時間で記します）、何事もなく3時間のフライトを終えて23時半には桃園空港に到着しました。さっそく空港Wifiに接続したら、そのままつながりました。さすがは桃園空港だな。Wifiの質は非常に良く、ツイッターはもちろん、グラブルまでできますよ。

なお妻のスマホは空港Wifiには接続できません。あるいは自分のファーウェイと妻のシャープの差なのかなあと思わなくもなく。

10分後にはイミグレに到着し、その10分後にはイミグレも通過して、さらにそれから10分後には荷物も回収できました。よし。ビバ台湾！

ホテルに移動しチェックイン

すでに開通している筈の MRT 桃園機場捷運は利用できない時間なので、いつものように台北駅（台北車站）への高速バスを利用します。国交客運 1819 の切符（1 人 125 元）を買い零時半に乗車。1 時間後の午前 1 時半には台北駅に到着しました。

バスを降りてみなと同じ方向に歩くと、ほどなく客待ちタクシーの列を発見したので乗車。あらかじめ妻がプリントしていたホテルの地図を渡して「シーメン（西門）」と言います。運転手は地図のスポットはあまり読めていない感じでしたが、メモしてあった漢字の住所表記を見て OK と言い車を走らせると、果たして数分後に目的のホテル「Red Cabin Inn / 紅菱閣旅店」（※1）の前に到着しました。時間が時間だけに、ホテルのフロントには誰もいなかったものの、呼んだらただちに来てチェックイン手続きも終了しました。

2 人の宿泊は伝えてあるものの、ドアのキーはシリンダー式の 1 組のみ。ちかたないね。

※1 <https://www.booking.com/hotel/tw/hong-ling-ge-lu-dian.ja.html>

チェックインのときにフロントが現金 1140 元を渡してきます。どうやらクレジットでの課金額よりも実際の支払いが少なくなったためらしい（連泊割引?）。ま、ありがたい。

台北の初日終了

時間も時間だし基本あとは寝るだけなのですが、ホテルを出て隣のファミマに入り今夜の部屋での飲み物やつまむものなどを購入します。さらに部屋の Wifi での接続を 2 人とも確認。問題なし。TV をつけたら CS でアニマックスが流れていました。中国語字幕つきではあるものの日本語アニメ。ほんとうにアウェイ感がないです台北。

さらに垂太電信の台湾 SIM をそれぞれのスマホにセット。自分のスマホでは即座に認識して通信を行えたものの、妻のスマホではつながりません。理由はよく分かりません。

うーん…ファーウェイとシャープの差なのかなあ（2 回目）。

この台北旅行中は基本的には妻と別行動の予定はないので、自分のスマホのテザリングをしたうえで妻のスマホから Wifi 接続できることを確認。よし、これなら何とかなりそう。明日のための通信の問題も解決したので、2 時半には就寝。

2018年5月18日（金） 西門町の朝

6時半に目が覚め、寝なおして8時に起床。

ともあれ、まずは朝食にしましょう。

ゆるゆると支度をしつつ、9時にホテルを出る。朝の光でホテルの写真をパチリ。隣がファミマはいいね。向かいにセブンイレブンもありますよ。台北はコンビニ多し。

ホテルのフロントに置いてあった飯屋マップを見ながら、西門駅方面に向かいましたが、最初東西を間違えてました。



近くの大衆料理屋に入って、まずは定番の魯肉飯と角煮丼から試すことにしました。いろいろと味わいたいので、妻と半分ずつ分けて食べます。

うん、おいしいね（もぐもぐ）。

お値段は2人で120元。まんぞく。

台湾アニメイトへ

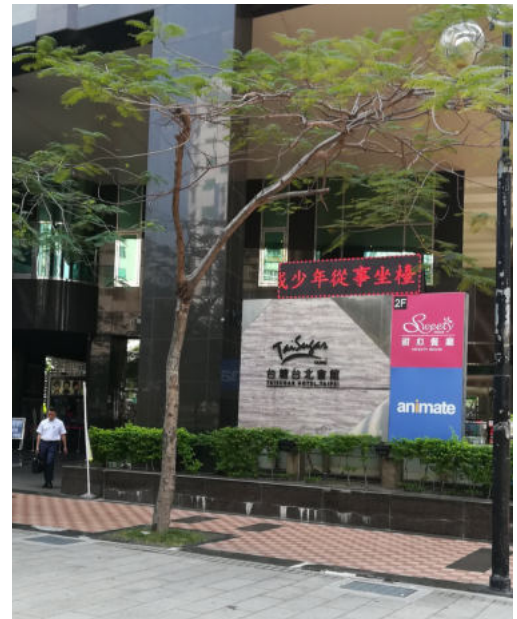
朝食を終えると9時半。台湾のアニメイト（+らしんばん）が10時開店の筈だから、ちょうどいいですね。GoogleMapを見ながらつらつらと西門町駅のほうへ歩きます。ところがグーグルマップが自分の向いている正しい方向を指し示してくれず90度くらいずれていたのに惑わされたりして、少しだけ北の病院のほうに迷いました。

後で判明しましたがこれはどうやらスマホの「持ち方」が悪かったらしいです。自分はスマホを前に倒して見ていたのですが、どうやら正確な方向を表示させるにはスマホを「垂直」に立てる必要があるようでした。少なくとも自分のスマホでは。

それはそれとして 10 時 10 分に台湾アニメイトのビルを発見して入店。

しばらく妻と別行動での買い物を楽しみましたが、それほど特筆すべきことはありません。

台湾版の「蒼き鋼のアルペジオ」最新刊など定番は買いました。あとは、明日からの即売会のパンフも 2 部購入。



足マッサージ

アニメイトを出ると 10 時半を回る。今日のメインである鼎泰豊の昼食にはまだ早いし、次の目的地の「とらのあな」開店は正午。昨日は池袋でいささか歩いたことでもあるので「足マッサージ」を受けるのもありだなと思いつつとらのあな方向へ徒歩移動していると、果たして手ごろな値段の店を発見。



さっそく 2 人で入り、コースを注文。

ここは足湯を満たすための設備が椅子の下に設置されていて、店員が足湯を桶に入れて運んではきません。

これは進歩したね…と思いながら足裏へのモミモミの施術がいよいよ始まると、その気持ちよさに声。

自分のご婦人の攻めに喘ぎながらも隣を見ると、妻が見知らぬ中年男の攻めに喘いでいました…って書くとなんか性的な意味があるみたいですね（笑）。

30 分余りの快樂に身を委ねてから退店。お値段は、

2 人で 800 元。**やすい！**

気持ちよく足の疲れも取れたし、自分については膝の痛みも取れました（これには驚いた）。

とらのあな台北店

足マッサージを出ると 11 時 40 分。正午に開店のとらのあな台北店まで移動してから、近くのセブンイレブンに行き抹茶シェイクを頼んでイトインで涼みます。60 元。

開店後にとらのあなに入店して店内をしばらく歩きますが、基本は「日本の同人誌」を輸入して台北で売っているだけのようで、さすがにわざわざここで買うには及びませんでした。ネタのために、bolze.さんの同人誌を買って行こうかなとも思わないでもなかったのですが、違うのは包装くらいとなると。

なお店内は撮影禁止でした。そうでなければ陳列などの写真を撮影したのですが。



鼎泰豊（ディンタイフォン）へ



とらのあなを出ると 12 時半。そろそろ、本日のメインイベントである鼎泰豊で、点心を昼食にいただく頃合でしょうね。このためタクシーを拾い、旅行ガイド本の鼎泰豊本店を指差して「ディンタイフォン」と言うと普通に通じます。他の支店に案内されることもなく（グーグルマップで一応は常時確認）、ほどなく本店前に到着。なるほど店の前には待機客が一杯です。

観光ガイドにあったように 30 分～の待ち時間は普通に織り込み済みですが、さてどういう風に当日予約を入れるのかなと考えながら待機客を

かき分けて店のお品書きの前に立つと、女性の店員が自分に人数と日本人かを聞いてきます。それに応じると、受付番号入りの日本語の予約用紙をくれました。妻と相談しつつメニューを選び渡して注文を確定して店員に渡します。



あとは待つだけです。がどのように呼び出されるのかなあ、と思って見ると電光掲示板の存在に

気が付きました。…なるほどね。まず「1～2人」「3～5人」「6人以上」のグループに分けたうえで、グループごとに連番をつけているようです。

自分たちの番号は1117番。すなわち1～2人のうちで8組後。あとは自分たちの番号が来るまでここかどこかで時間を潰して頃合を戻ってくればいいわけです。うっかり遅れて自分の番号が飛ばされてもすぐ分かります。呼び出しのアナウンスも日本人と確認済みの番号は店員が日本語で行っていました。シンプルながら、とても**優れたシステム**だと思いました。さすがは大量の注文をさばく人気店です。

鼎泰豊の点心



隣の土産物屋で10分ほど時間を潰すうちに、待つというほどでもなく自分の番が来て入店。着席後まずカルピスウォーターとSpriteを届けて貰い、飲む。外はだいぶ暑いので冷たいドリンクが快い。あとは、来るもの来るものを妻と分けて食べます。

点心が4～5個入りの容器が到着するとそれを2人で2～3個ずつ食べ食べ。

うん、おいしいおいしい。

点心は何種類か出ましたが、**見た目はほとんど変わらない**ので個別の写真は割愛します（笑）。あとは皿どっさりの青菜をつまみます。



最後に出てきた野菜と卵スープの量には、いささかたじろいで「最初に出して欲しかったな…」とは思ったものの、おいしく頂きました。

とはいえまだデザートが待っているので、青菜とスープは無理に食べず残しました。

最後はデザート。中身は餡子みっしりでしたが、見た目はほぼ変わりません（笑）。



そこそこ満腹になったので胃薬を飲む。台湾に来る場合は飲み慣れた胃薬持参をお勧め（笑）。小一時間ほどたっぷり楽しんでサービス料込み会計は1049元。そこそこのお値打ちですが、こういう所に金をかけるのは正義。自分土産の「食べるラー油」をレジで受け取り、満足して店を出ました。

誠品書店と FGO

鼎泰豊を出るとそろそろ14時。次は文房具好きの妻のリクエストにより「誠品書店」の本店に行くことにしました。タクシーでほどなく到着。

しかし文房具というよりも小金持ちのこじやれた客目当ての**丸善のような**店ばかりで



いまひとつ魂を揺さぶるものを得られずに、フロアをつらつら移動します。トイレ個室がシャワートイレだったのには感心・感動。

また途中のフロアの化石ショップは、中々の眼福の品物揃いで、しばし時を忘れました。一応お金を出せば誰でも買えるものではあるようです。もちろん僕は買えませんけど。しかし何百万円もの石を見た後だとお土産

コーナーの1万円くらいの石が安く見えるふしぎふしぎ（笑）。買いませんでしたが。

何やら最上階のイベントスペースでF G O（Fate Grand Order）の飾り付けをやってました。明日はFGOの台湾展開の一周年のイベントがあり、新聞にも**全面広告**を出していました。すごいなあ。

そして地下のフードコートを覗いてから建物を101方向に出ると外に**一般参加の徹夜列**が。こういうのはどこの国でも変わりません。彼らを横目にしながら、101の方へ移動しました。



101 ビルのフードコート

101ビルに登るつもりはなかったものの東門駅に戻るためM R T「台北101/世貿駅」の方向に向かいます。101ビルには16時に到着。まだ陽は高く暑かったため、101ビルの地下フードコートに行き冷たい物を注文します。生き返りました。しばらくここで妻とだらだら時間を潰します。

ふたたび東門駅へ

17時にMRTで台北101/世貿駅から東門駅へ。自分は今夜は東門駅の近くのマジックのショッポの大会「フライデーナイトマジック」に参加するのですが、それにはまだ3時間くらいあるので、いま少しまだ妻と駅前で暇を潰すことにしたのでした。

鼎泰豊の前で妻といったん別れて自分は駅の北側に行き、目的のショッポの場所を確認。よし、ここにはまた2時間後くらいに来よう。

鼎泰豊の隣の土産物屋で妻と合流したのちに、南側の商店街をぶらぶら。うなぎの蒲焼を売りにする和食堂（2000円程）なども目だつものの、まだ夕食には少し早いかなということでスルーして18時過ぎに妻と別れました。

妻と別れるなり小腹が減ってきたものの（笑）、ここで1人だけうなぎを食べるのはいかなものかという自問と、それほどうなぎ腹でもなかったことから屋台で粉物を注文。卵ととうもろこしをトッピングして40元。

うん、安くておいしいB級グルメの味。



フライデーナイトマジック

ようやく暗くなってきたもののまだ暑くて時間はあるから、商店街のマンゴーかき氷でも行くかなあ…とも思ったものの、かき氷は明日の晩の士林夜市での妻とのお楽しみにすることにして、あとは目的地のゲームショッポで時間を潰すことにしました。

駅の北に移動し、さきほど場所を確認しておいた店「艾客米（Akmigames）東門店」に15分ほどで到着。

今夜のフライデーナイトマジックのドラフトに参加する意向を伝えたのちに、案内されたエアコンの効いた店内の奥の小部屋で冷たいものを飲みながら、明日の即売会のカタログ



チェックなどして時間を潰しました。

向こうのボードゲームルームでは、若い女の子が大勢で多人数ゲームらしいものをしておりその歓声がここまで聞こえてくる中で、自分の待っているドラフトルームにも**おっさん中心**に人がぽちぽちと集まってきました。

そして 20 時から始まった大会は普通に 23 時半には終了。参加賞のプロモと勝ち数の 1 パックを貰います。

本書はマジックの旅行本ではないのでこの部分についてはこのくらいにしておきましょう。

別行動中の妻は、それから MRT で西門駅に戻り、パン屋で色々な点心を購入したのちホテルに戻って適当にそれをつまみながら夕食にして休んでいたようです。

2日目終了

東門駅から西門駅まで MRT で。この時間だとさすがに間隔が長くて少し待ったものの、何事もなく台北駅を経由して 20 分ほどで西門駅に到着。そろそろ日付は変わりますが、終電はまだまだあるみたいです。台北は夜更かしさんの街。

あとは帰って部屋でシャワーを浴びて寝るだけで、寝る前にちゃんとした夕食を食べるかどうかを少し思案したものの、これはという店が見当たらなかった（食べ物の屋台などはまだ開いていました）ので、コンビニで適当にアイスやポテチなどを購入して部屋に戻ります。廊下の物音が聞こえたらしく、入る前に妻から部屋のドアを開けてきました。

シャワーを浴びて、軽く飲食物をつまんで 1 時半には就寝。

2018年5月19日（土） 朝の屋台めし

8時過ぎに目が覚めたので起床。

今日は台湾の同人誌即売会 PF28 に行く予定ですが、家族会議の結果、朝一から頑張っていくほどのことはあるまいということで、ゆるゆると出かけることにします。

のんびり支度をして9時過ぎに出発。

さて朝食は…ということで、西門町の交差点に出ていた屋台で済ませることに。

なんとか餅 50 元と、別の屋台で粉ものに卵ベーコンそれにチーズをトッピングして合計 95 元。
普通においしいですね。



同人誌即売会 PF28 へ

朝食を終えると9時40分。西門町MRTに乗り台北駅を經由して30分後には円山駅に。明日も九份への荷物持参で来る可能性があるため駅構内のコインロッカーの位置も確認。

この2年 GP 台北が開かれていないので、花博公園に来るのも2年ぶり。を、鄭問先生の展示会なんてやるんですね。また来たいな（さすがに無理でした）。

まもなく10時半の一般入場開始時間の筈だがさて一般列の最後尾はどっちだ…と思って移動しつつ探すと、一部の方が会場のはるか向こうへ歩いていきます。

はるか遠くに人の集団が見えたので、まさかアレなのかと思いつつ歩いていたら**そのまさかでした。**



うひゃー。とはいえ開場時間頃に並んだにしてはおとなしいものでしょうか（日本基準）。

仕方ないので自分たちも最後尾に並びます。なお、自分たちの後で来た少年が列に折り返すところで横入りして前に並びやがったので、この少年の欲しい本が直前で売り切れるよう**呪い**をかけました。

とはいえほどなく列が動き始めて、その10分後には入場できました。特に目当てのない自分たちとしては、待たされたというほどのものではありませんでしたね。

あとは適当に、会場の端から端まで順番にサークルを見て回ります。育っているとはいえ、まだそれができる規模です。さらにグッズ中心に気に入ったものを購入します。またコスプレイヤーを撮影したりも。基本的には、18禁のエロ本がない点以外は日本の同人誌即売会と何ら変わるところは無い感じです。

なおカタログでのブロック案内で「Lolita 特区」というのがあったので期待して足を運んだものの、**えろり本**のことではなくゴスロリ系のサークルでした。残念。
（エロ本がない時点で気がつけよ…）



フードコートで昼食

1 時間半ほどもかけて一通り歩いて回ったので会場を離脱し、目の前の青果市場へ。石蓮花ジュース（50 元）などを飲んでから横のフードコートに入ります。

2 人席を確保したので交代で買いに行くことに。まず妻が出て何やら揚げパイを買ってきます。続いて自分が出て 50 元の台湾麺線を買ってきたのだが、これが大失敗で**激しく不味い**。少し悩んだ末「これで腹を満たすのは勿体無い」と考えて、ぜんぶ廃棄所に捨てます。妻のパイを分けて貰ったうえでフードコートを出ます。



暑いので、かき氷を食べようと思ってカフェに入るものの「店内に座るのなら、かき氷でなく飲み物を」という謎ルールを言い渡されたためオーダーを冷たい飲み物に変更して、目の前の通路をコスプレイヤーが歩くのをつらつら眺めてしばし涼みます。

13 時半、花博公園を離脱。

剣潭でマッサージ

13 時 40 分、予定よりは少し早いもののもう円山を離脱して士林に行くことにしました。円山のサブプランでは近くの孔子廟に行くというのも一応あったのですが、この暑いのにさらに数百メートル歩くというプランは 2 人とも破棄（笑）。まあ本気で観たいのならばタクシーを拾う所ではあるのですが。

MRT に乗って 1 駅だけ北上して剣潭駅で降ります。まだ 14 時で士林夜市どころではない時間なので 2 時間くらいマッサージを受けて時間を潰すことにしようと決めていたので、駅前を士林夜市のほうに歩いていくと、ほどなくマッサージ屋を発見して客引きにも声を

かけられます。お値段も問題ないので即応。今日は足から入って全身への2時間コースを受けることにして妻と2人で2880元。それから2時間**至福の時間**を味わう。きいたー。

士林夜市

マッサージを終えると16時を回りました。ではいよいよ夕方と言える時間になったので、今日のメインイベントである士林夜市の観光を開始することにしました。

すでに屋台がぽつぽつと開いていたりまだ準備中の所を横目に、まずは入口近くの手近な食堂で「マンゴーミルクかき氷」からスタート。180元。…普通においしいのだけど「フワフワ」のかき氷ではなかったのですね。残念。



後に判明しますが「フワフワ」かどうかはメニューに漢字名称で明記されておりました。次からは必ずチェックするようにしましょう (P.21)。

店を出て別の屋台で「チョコレート餅」や「鳥の唐揚げ」をオーダー。本格的な夕食にはまだ早いものの、小物をつまんでいく方向で。うん、おいしいです。唐揚げは100元でしたが予想以上に量が多かったですね。

さらに IKEA のロゴ入りの変Tシャツ (2枚 500元。それほど安くもない) を買ったり、ポケモンのモンスターボールTシャツ (もちろん著作権など取っておるまい) を買ったり、胡椒餅 (50元) を買ったり餡子きなこ餅 (6個 30元) を買ったりしました。



胡椒餅と餡子きなこ餅は、いつものように近くの神社に持ち込んで妻と座って食べたのですが、まだこの時間だと家族連れが多いですね。以前に真っ暗になった時に入ったら**カップルばかり**だったのですが。

ちゃんとした夕食は地下の美食街で取るつもりだったので、あまり腹を膨らませすぎないように注意しつつおいしく頂きました。

まだまだ明るいですがそろそろ 18 時。あと 1 時間くらいで夕食にしましょう。

アーケードで遊ぶ

そろそろ周辺を歩き終えたので中央アーケードを攻めることに。定番のパイナップルケーキを買い、さらにトイレがてらに地下美食街にいったん入ります。たぶん 1 時間後くらいにここで夕食を。さらに外を回り、大きな花型の綿飴（写真）を 70 円で買ったりもしました。右下に茎のように見えているのが妻の腕なので綿飴全体のサイズはお察しの巨大さです。



そういえば以前には何件かあった、日本製 AV のコピー DVD を売っている店を今回見かけませんでしたが**全滅**したんですかね…エロへの摘発が厳しくなったのか、もうエロ動画なんてネットで見られるからなのか。

あと数年前に居た、米搗きバッタのように高速で土下座する物乞いや十字路を占有するフリークス物乞いの姿も見かけられませんでした。

一通り回ったようなので麻雀ビンゴ（6回 100 元）を遊んで景品を貰ったり。



地下美食街

ぶらぶら遊んでいるうちに 19 時を回ったので、そろそろ夕食にすべく地下美食街に入ります。手ごろな店に入って座り、海老炒飯と臭豆腐と飲み物を注文。220 元。安い！

うん普通においしいですね mgmg。臭豆腐は前回台北に来たときにチャレンジしてみて全然 OK だったので今回は妻にも味わって貰う意味合いも含めて注文したのですが、例によって別に臭いも気にならずに、さっぱり味つけでした。



そして食後、いよいよある意味では本日のメインイベントである「かき氷」に入ることにしました（3 時間ぶり二度目）。

さすがに今回はさきほど食べたマンゴーミルクはパスして、期間限定のイチゴのフワフワのカキ氷にしました。

うん、おいしいですね。やっぱり台北のカキ氷はフワフワのやつがいいのです。そして遅まきながらメニューをしげしげ見て、綿綿氷（メンメンピン）」というのが「フワフワの氷」らしいことに気がつきました。



綿綿氷とは書いていないかき氷も普通にメニューにあったのです（少し安い）。今後は台湾でかき氷を注文する際には、メニューに「綿綿氷」と書いてあるのかどうかをチェックすることにしましょう。

ホテルに戻る

20時。さすがに士林夜市はだいたい堪能したかなと思えたのでホテルに戻ります。2人でもあるので普通に西門町までタクシーを拾い、コンビニに寄ってホテルに戻ります。部屋では「シャワー」でなくバスタブに湯を満たしてゆったりすることにしました。風呂あがりに「にんじんりんごカルピス」をごくごく。何年も前から毎度言ってますけど、なぜ日本のカルピスはこれを日本で売ろうとしないのか理解に苦しむおいしさ。あとはソシャゲを転がすくらいしか夜更かしをする理由もないので、二人そろって22時には寝床に入り、そのまま就寝。

2018年5月20日（日） 故宮博物院と九份

目覚ましはかけませんでしたが7時前に目が覚めました。さすがにぐっすり。

一応は、今日も即売会の2日目に行く予定も入れていたのですが、家族会議の結果「…ま、別に目当てのサークルがあるわけでもないし、行かなくていいよね」という結論に。

九份に移動するのは夕方なので、となると昼はどこに観光に行こうかということで、定番ではあるものの故宮博物院に行くことにしました。

ゆるゆるとソシャゲをしたり荷物をまとめたりしてから、8時半にチェックアウトをして西門町駅に向かいます。MRT 板南線へ。

9時過ぎに乗り換えのため台北駅で降り、コインロッカーを探して荷物を放り込んで身軽になり、駅の構内で朝食にすることにします。…が、まだろくに飯屋は開いていないので、この際マクドメしでいいやということでマクドナルドのセットで済ませます。170 元。

故宮博物院

10時過ぎにはMRTの淡水信義線で北上します。昨日降りた花博会場や士林夜市を横目に今度はもう1駅先の士林駅で降りてタクシーを拾います。

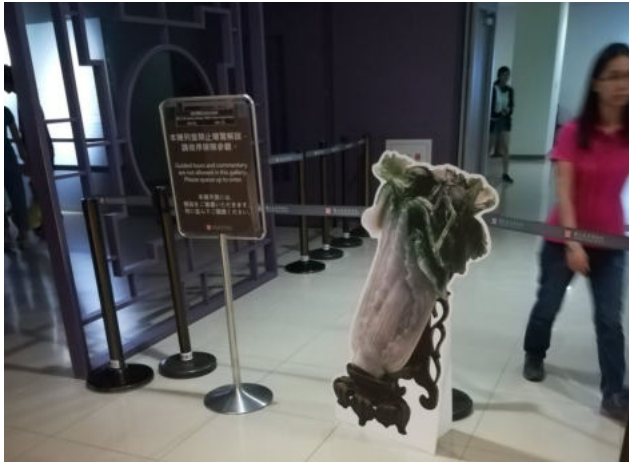
10分ほどでタクシーは故宮博物院へ到着。料金135元。2人なら無理にバスで交通費を浮かせなくても全然OKな値段だなと思いました（あるいは1人でも）。

チケット350元、
日本語音声ガイド
150元を支払って
入場。

日曜日だけに、
そこそこ観光客で
混んでいます。



故宮博物院では色々なものを見たり写真を撮影したりしましたが、とりあえず自分の一番好きな奴（彫象牙透花人物套球）が今回もじっくり見られましたので良し。象牙から掘り出した21層の球。長い針で少しずつ削って作ったということは理解できるものの、想像もできないような手間の至宝。



あとは定番の**白菜と角煮**も見ましたが、有名だしここに写真は別に掲載しなくてもいいですね…。

他にも巨大なラピスラズリなど、色々を見てトータルでは3時間くらい歩いて「もういいかな」とばかりに展示場を出て売店をひやかしてから（特に何も買いませんでした）、さすがにくたびれたのでカフェに入り涼みます。冷たいものを中心に頼み、おいしく頂きます。



14時には故宮博物院を出ました。タクシーを拾い、まずは士林駅へ。

台北駅地下街で昼食

士林駅からMRT淡水信義線に乗り、14時半に台北駅で降ります。まずは昼食にしましょう。しばらく台北駅の地下街をうろうろして、食事ができる所を探して、ここでいいかなということで普通の台湾料理店に入り牛肉麵を注文。うん、こんなもんでしょうねえ、もぐもぐ。妻の頼んだ排骨飯と合わせて190元の庶民めし。



九份へ

15時に食事を終え、駅のコインロッカーに預けていた荷物を回収してからMRT板南線で忠孝復興駅まで2駅移動し、忠孝復興駅前のバス停をほどなく発見して（普通に聞いたら教えて貰えました）何ごともなく15時40分、九份行きのバスに乗車します。

1時間あまりバスに乗って、山道を登って17時、目指す「九份老街」停留所に到着しました。皆が降りるのを見て自分たちも降ります。ここからでもすでに**味のある景色**が広がります。もりあがってまいりました。



なお自分は車中だいたい寝ていたし何ともなかったのですが、妻によれば「運転が割と乱暴で道路もガタガタで酔い止め薬を飲んでいたのでセーフだったけど飲んでなければ吐いていたかもしれない」とのことでした。

安宿にチェックイン



では荷物もあるので、まずは宿を探してチェックインすることにします。スマホの地図を参照しながら道沿いに登っていくと、数分ほどで今夜の宿の「Kao Mama BB」を発見しました。

非常におんぼ…**味のある**施設です。

<https://www.booking.com/hotel/tw/jiu-fen-gao-ma-ma-min-su.ja.html>

写真は翌朝撮影したものです

ガラス戸を手で横に開けて中に入り、奥にいたおばちゃんに話しかけると普通に手続きを行え、3階の部屋へと案内されました。エレベーターなどない、かなりの**急勾配**の階段を重い旅行鞆を片手に上るのは、少しひやひやものでした。ホテルというよりは民宿ですねここは。

部屋は広くはないものの、まあ普通。眺めもとても良いです。



九份旧市街



17時半、荷物を置いて宿を出ます。おばちゃんが付近の案内図などをくれました。いよいよ待望の九份観光です。

九份は何のひねりもなくアニメ「千と千尋の神隠し」のモデルとされたという俗説

(事実でない模様)を**知らん顔**して観光資源にしているので、売店ではごく普通に「カオナシ」のお面を売っておりました。うるさいことを言わずこの手のビッグウェーブには乗ることにしているので、60元を払って購入し、装着。もうウキウキですよ。

いろいろ飲み食い

地図に従って、ほどなくメイン観光ルートの旧市街の入り口を発見したので、入ってぶらぶらと山道である1本道の商店街を奥へ水平方向に進み、店の飲食物を思い思いに妻と注文して適当に食べます。このためにここに来たのですから、ためらうことはありません。

庵人茶 35 元、アイスのどら焼き、ソーセージ 40 元、タロイモ団子 50 元。おいしい。たのしい。





九份旧市街は少し蛇行しながら水平方向に
続きつつ、中心の十字路では上りと下りに
分かれていました。

このため、まずは上下移動を避けて正面に
歩いていくと、やがて突き当たりの反対側
まで出ました。どうやらここまでの模様。
だらだら 30 分ほどは歩いていたので、
200m くらいはあったでしょうか旧市街。



反対側も山麓の眺望で、確か
あっちが台北市の方向です。

そろそろ 18 時半になるため
薄暗くもなってきた中、引き
返して来た道を戻ります。

やがて中心の十字路まで戻りました。ここからは上るか下るかなのですが、九份と言えばココ！の「千と千尋の神隠し」の湯屋のモデルとの俗説の場所阿妹茶酒館は下にあるようなので、ではまず上を制覇すべく割と急勾配の階段を上ります。

数分かけて頂上の小学校のある辺まで上りましたが、いささか疲れたこともあり特に写真も撮らずここはそのままで、来た階段を下ります。

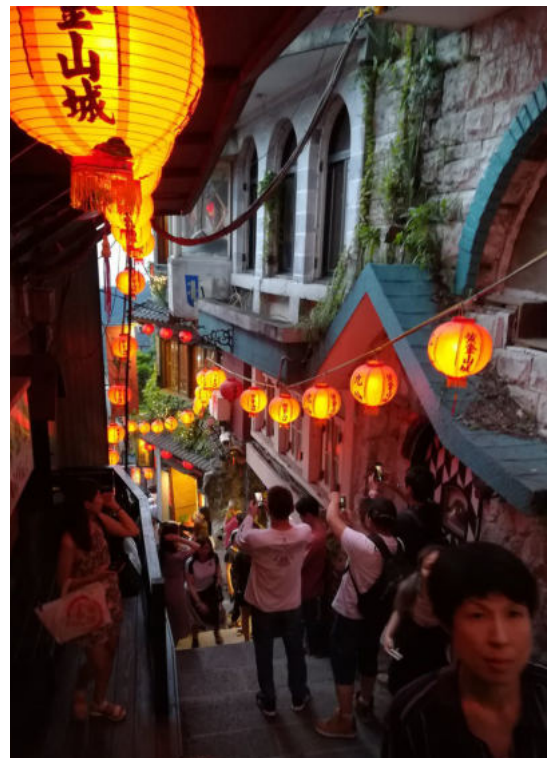


阿妹茶酒館（例のアレ）

階段を下りて十字路まで戻って、さらにそのまま階段を下りていくと、やがてほどなく**何となく見覚えのある**光景になってきました。ああ、どうやらこのようですね。橙色のぼんぼりもとてもいい感じです。

階段を下りきって、少し広くなった「いかにもな撮影スポット」の所へ出ると、そこには大勢のカメラを構えたり自撮りをしている観光客の姿。おりしも今は、このスポットの撮影には最適の「夕暮れ時」です。みんなこの時間のこの風景を見るために九份に来たと言って過言ではないわけなので、それはもう結構な賑わいぶりでした。

もちろん、ぼくもひとりの観光客としてうきうき記念撮影に参加して写真を撮ったり妻に撮影して貰いましたよ（お面をかぶってますけど）！





この写真からは見えませんが、この近くにある別の店の**屋根に登る**と映画と同じアングルの写真が撮れるのかなあとかぼんやりと思いました。

もちろん、やりませんが。

旧市街を出て宿に戻る

写真の撮影を終え、階段を一番下まで下りると18時半を回りました。そしてもう一度今来た階段を上るのはおっくうであるうえ、何よりも旧市街の商店街は**19時に終了**してしまうとのことなので、今からわざわざ商店街に戻る意味はもう無いようでした。

観光ガイドによれば九份の見所はやはりこの「夕暮れ」のひとときの風景であり、それにはまったく同意できたものの、どうやら九份では「夜」の観光の見所というものは特にないようです。つまりこれから九份で一泊する僕ら

ではあるものの、ここには夜市はおろか、足マッサージの店や風俗や温泉があるわけでもなく行ける所はコンビニくらいで、宿でのんびりする以外には特にやることはなさそうなのでした。※当初の自分は「北投」と混同して温泉があるとも思ってすらいたのですが。



ファミマで夕食

それはそれとして、どうやら階段を上らなくてもゆるい坂を上って宿のほうに戻れるようであったので、そちらのルートで戻ることになりました。これからバスで台北市内へと帰る多くの観光客に混じって、自分たちも店を閉めつつある商店街の坂道を歩いて戻ります。皆が一斉に台北市内に帰ろうとする帰りのバスは結構混雑しているようだったのですが、自分たちはそれには無関係にのんびりと歩きます。

19時には宿のある大通りへと戻れました。旧市街ではそれなりに色々つまんだものの満腹でなかったのが、ファミマに入っておにぎり等を買って、イトインに座って夕食にしました。

コンビニが無かった頃は割と困ったかもしれないな、と思わなくもなく。



部屋でつまむポテチや飲み物も買い、19時半には宿に戻りました。

あとは妻と部屋でネットをしたりソシャゲをしたり、ごろごろしたり仮眠したりで数時間のんびりしました。特にやることもなかったのが、零時過ぎには就寝。

自分はあまり事前の調査もしないまま九份の宿を取ってこのようにのんびりしましたが、実のところ九份を19時まで堪能して帰りのバスに乗れば21時には台北市内に戻れるわけなので、正直なところこれから九份に行こうと考える人は、台北の宿を連泊した上で九份には**日帰り観光で行くのがお勧め**だなあとと思いましたよ（笑）。

周辺の金山などへの翌朝昼間の観光なども含めた本格的な九份を楽しむプランなら話は別ですが、阿妹茶酒館の夜景だけ見ればそれでいい…という意味ならではですが。

2018年5月21日（月） 北投温泉の日

朝です。5時半に目が覚めてしまいました。

とはいえ睡眠は十分だったので、シャワーを浴び起きることにします。

この宿は一泊1500元。コスパは悪くないと思うので、九份に泊まることがもし今後もあればまた利用するのもありだとは思いました。まあたぶん九份に泊まることはもうないのですが（笑）。

今日は夕方に北投に移動して温泉を楽しむ以外の予定は入れていないので基本、のんびりします。

朝食（無料）が8時でチェックアウトが11時なので、自分は朝食後に九份をもう1回リすることを決めました。念のため妻に聞いたら、部屋でごろごろしているとのこと。ま、それも良いでしょう。台湾へはのんびり遊ぶために来たのです。



8時に妻と2階に降りると、おばちゃんがラップに包んだ**手作りの**朝食を出してくれたので、テーブルに座ってそれをいただきます。おいちい。

カットフルーツのデザートも出てきました。うん、おいちい。エレベーターもなく階段が急な以外は、この宿は基本、満足度が高いです。



早朝の九份



天気も良く朝食をおいしくいただいたので、腹ごなしがてらに早朝の九份を一回り散歩することにしました。

まずバス停のところの展望台に上ってから、大通り周囲の町並みを撮ったりしました。

それから昨日の帰りとはほぼ逆コースをたどって旧市街のほうへ向かいます。さすがにコンビニ以外は開いてません。

特に信心はないものの、途中にあった廟の前で写真を撮ったりしました。



改めて坂を上って、例の撮影スポットから阿妹茶酒館を朝の光の中で撮影してみたりしました。うん、まあここはやっぱりぼんぼり夜景です。

そのまま坂を登った十字路から、開いていない商店街を奥に進んだりもしました。眺めの良いところに法輪功の看板もありました。台湾では元気みたいです（写真は割愛します）。



最後に、昨日は途中の店までしか上らなかった十字路の上り階段を、**よせばいいのに**一番上にある小学校の門前まで上ってみました。ええまあ、眺めは良かったもののそこそこ疲れました。

小一時間ほども歩き、そろそろ9時なので戻ることになります。ぼちぼち店も開き始めるようです。

台北市内に戻る

部屋に戻って、汗だくの服を脱いで冷房の効いた部屋でしばらく涼むと9時半。どうやらもう九份にとどまる理由もないようなので、台北市内に戻ることしましょう。

部屋に居た妻が荷物の整理を終えてくれたので、そのまま服を着て階下に降りてからチェックアウト。来たバス停は坂を下りた所にあったものの宿屋のおばちゃんによれば帰りのバス停は坂を上ったほうだということなので、素直にそれに従い、坂を上ってそちらのバス停へ。

情報は正しく9時45分、待たずに来たバスに乗車。ありがとうおばちゃん。この宿は快適でしたよ。もう九份には泊まらないだろうから利用しないと思うけど。

何ごともなくバスは11時には忠孝復興駅前そごうの目の前のバス停に着きました。

これにて一泊二日の九份旅行は終了です。



足マッサージとそごうの昼食

昼食には少し早いので、妻と観光ガイド本にも載っていた近くにあるマッサージ屋に移動してから、45分の足コース（600 元）を2 人とも受けます。

ただただ**至福**のひとつとき。

台北は足マッサージ屋の天国です。



正午を回ったので昼食にします。まずは冷房を求めてそごうに入り、レストランのフロアへとエレベーターで昇ります。

フロアを一回りしたのち、明日の帰国に備えて日本食に慣らしておこう（笑）ということで、日式とんかつの店「勝勢」に入りました。

日式なので胡麻とすりこぎが出てきますし、キャベツはお代わり自由のシステムです。

そして満を持し出てきた
とんかつ。どーん！
いただきまーす！

うんうん、おいしいよう。
とても幸せなひととき。



…まあ、日本で普通に食べられるものと**同じ**ものに**少し高め**の値段がついているだけと言えなくもないのですが（笑）、満足。

デザートをいただいて締め。



北投温泉へ

のんびりしてから 14 時過ぎに「勝勢」を出ます。

そごうを一階まで降りてから MRT 忠孝復興駅に移動し、板南線に乗って台北駅に移動し、あとは淡水信義線に乗って北上。

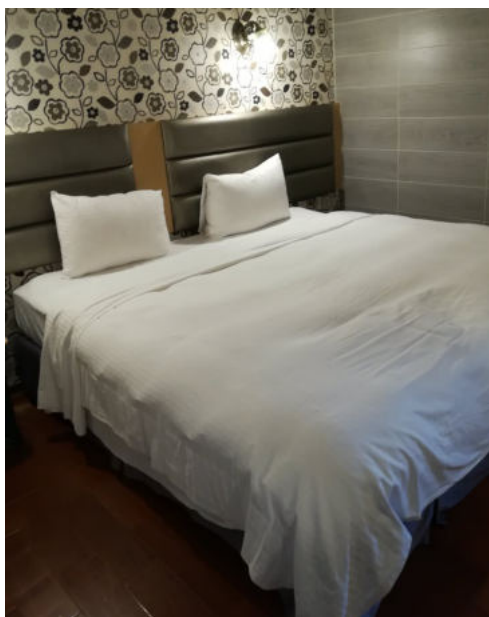
15 時過ぎには淡水信義線の北投駅に着いたので、そこで乗り換え 1 駅で「新北投」駅に着きました。市の中心部から 1 時間で温泉街。いいですね。

新北投駅を降り、では本日の宿である「水紗蓮ホテル Pink Lotus Hotel」（※1）はどこだろうと地図を見ながら駅前を進むと、通りを挟んだ目の前にあるのを**あっさり**発見。

通りを渡って入り、チェックイン。駅から 5 分もかからず入室。



※1 <https://www.booking.com/hotel/tw/pink-lotus-beitou.ja.html>



部屋はまあこんなもんか。朝食なし一泊 1670 元。初めてのホテルに泊まった際の常として、部屋のチェックを開始すると、部屋のテレビで**アダルトビデオを無料**で見られることを発見。

このホテルの評価アップ…というよりこのホテルは**ラブホテル**としても普段ご利用されるのではないだろうかと推定。温泉宿の割には大浴場もないし、そういえば御休憩料金もあったようだし、フロントにはスポーツ新聞みたいな微工口雑誌もありました。

周囲を散策

時刻は 15 時半を回りました。夕食を含めた今夜の予定はまったくノープランだったので、自分は予定を決める意味でも付近をぶらぶら歩いて見ることにしました。妻は引き続き、部屋でごろごろしている模様。

駅から離れた先に公営温泉露天風呂があるようなので、行って見ることにしました。

途中、隣の大きいホテルの看板に「大浴場」の文字が見えたので、ふらとフロントに入り日本語のパンフレットを貰い、読みます。

ふむふむ、大浴場を宿泊客でない外部客が利用する場合には、利用料金 1000 元かー…

うーん、まあ**ちょっと高い**ですかね。次に北投に来る時は最初からこちらのホテルに泊まった場合の宿泊費がいくらになるかを含め検討してみることにして、今日は見送り。

調べたら僕らの宿泊した水紗蓮ホテルは一泊 4 千円くらいでしたが、この大浴場付きの大きなホテルは一泊 1 万 5 千円くらいでした。うんまあ一泊の温泉旅行ならあるいは。

さらに先に進むと、公営露天温泉がありました。どれどれと思いつつ入場券自販機の所の日本語交じりの注意書きを読みます。

- ・利用料は40元。まあ十分に安い。
- ・水着必須。
- ・足湯だけつかるのは不可。

…水着の用意はしてこなかったにしても、足湯だけ使うのもダメなのかー。
あるいは駅前で水着を買えるようならばそのうえで利用するのもありかもしれず。



CoCo 壱番屋カレー味ポテトチップ



30分ほど歩いてから部屋に戻りがけにコンビニに寄ると、「CoCo 壱番屋」と「Lay's」の提携した限定商品である「CoCo 壱番屋カレー味ポテチ」などという商品を発見したので購入。このポテチは45元ですがパッケージに印刷されたクーポン券をCoCo 壱番屋のキャンペーン中の台湾店に持っていくと注文が50元の割引券になる模様。**おかねがふえる！**（錯覚）

17時にホテルに戻り、部屋でポテチをつまみながら妻と今夜の予定を相談します。結論としては、この部屋の個室の浴槽にも温泉の源泉を引いた蛇口があったことが判明したので、今夜は隣のホテルの大浴場でも露天温泉（要水着）でもなく、普通にこの部屋の「温泉」で済ませることにしました。

大戸屋で夕食

さらに夕食は隣のビルの大戸屋で済ませることにしました。台湾で大戸屋。このアウェイ感のなさが台湾です（笑）。18時を回った頃に、妻と部屋を出て大戸屋へ。

さて今夜は何にしようか…ということで夕食メニューを見たところ「うな重」を発見します。499 元。



自分はただちにこれに決定し、妻はうどん定食を頼みました。味は普通においしいうな重。食事を済ませてホテルに戻ると 19 時を回りました。

夜のお買い物

しばらくは部屋で妻とごろごろしていたものの、明日の朝食をどうしようとかか相談するうち、今夜のうちに買い物に行っておくことにしようという結論になりました。

そこで 20 時過ぎに再度ホテルを出て、駅前をぶらぶらと歩きます。まだ足を向けていなかった通りの反対側に向こうに渡り深夜までやっているスーパーを発見したので、ここでパンや飲み物を購入し 21 時過ぎに部屋に戻りました。



※この建物画像は Google Street View から頂きました。

個室内で温泉

このホテルは「大浴場」はなく、風呂はユニットバスに入るしかないものの、各部屋には「温泉の源泉」が別の蛇口で引かれておりました（右側）。さっそく、今夜の風呂はこれを使ってみることにしましょう。

まずは浴槽の栓をしてから源泉の蛇口を開いて、さらに源泉だといささか熱過ぎのため通常の蛇口から水を出して温度を調節して浴槽を満たします。



そして湯船に気の済むまで浸かり、そのまま洋式風呂で普通に身体を洗います。

身体を洗い終わったら浴槽の栓を抜いて、さらに源泉だと**硫黄臭い**ので普通のシャワーの温水を出して身体を軽くすすいで終了。風呂を出て妻と交代しました。

なるほど気分の問題かもしれませんが、身体がぽかぽかと温まりましたね。これはいい。

それからまただらだらして、零時過ぎには就寝。

新北投は台北の中心部から1時間もかからないので、温泉だけを日帰りで楽しむことも十分に可能であり、あるいは市内の宿に連泊して温泉を楽しむなり服を来て市内に戻るプランも普通に可能ではあるでしょう。とはいえ、やはり温泉やご飯を楽しんだらそのままのんびりしたいのが人情。

その意味で、やはり新北投温泉に来る場合には初日か最後の夜に一泊するプランを軸にお勧めしたい所です。新北投は普通に夜も店はやっているようですからたぶん退屈することもないと思われます（調べてませんがマッサージや風俗店も多分あるでしょう）。自分のような安宿温泉にするか豪華な温泉旅館にするかは好みとご予算次第で。九份は「宿を取るには及ばない」との結論でしたが（P.30）新北投は温泉街ですからね。

2018年5月22日（火） 帰国日

5時過ぎには目が覚めてしまいましたがぐっすり眠れ休息は十分なので、妻ともども起きてしまうことにしました。まずは昨夜のスーパーで買っておいいたパンで朝食にします。

さらにのんびりしているうちに7時を回りました。今日は昼過ぎの便で日本に帰るだけなので時間はまだまだ余裕なのですが「時間を潰すなら空港」という鉄則のもと、早め早めに支度をしホテルを出て空港に向かうことにしました。



ネタのためにホテルのフロントで買ってみた 100 元の微工口の週刊誌ですが、実のところは工口本と言えるほどの内容ではありませんでした。女性の写真も水着下着止まりでおっぱいぽろりヌード写真もありません。

挿絵や単語から推定すると読み物は多分工口絡みなのですが、残念ながら台湾語はほぼ読めません。さすがに持ち帰っても仕方ないので、部屋のゴミ箱に捨てていきます。

あとは7時半にホテルをチェックアウトして出ます。ホテルを出たら目の前の新北投駅に乗るだけです。さらば新北投。



MRTで桃園空港へ

MRTを新北投から北投に1駅乗った後、淡水信義線に乗り換えて台北駅へ。

過去に台北を訪れたときとは異なり、今回は桃園空港から台北駅を直結するMRTである「桃園機場捷運」が何年か遅延したのちにやっと開通したので、これを試して帰ることにしました。おそらくは今後は桃園空港との行き来は高速バスでなくこのMRTをメインで利用することになるのでしょうか。

ただし高速バスと違って24時間運行ではないので、行きに桃園空港に深夜に到着した際には利用できなかったのですが。

8時10分に台北駅に着いたので、案内に従ってMRT 桃園機場捷運の乗り場に向かって台北駅の構内を移動…したのですが、割と距離があり

たっぷり10分は歩いた後に到着。

160元を支払って改札に入り、その10分後には空港までの快速線に乗車しました。

桃園空港までのMRTの料金は160元で、これは高速バスの125元よりはだいぶ高いのですが、とはいえ利便性を考えたら普通はこっちを選択するよねとは思いました。



MRTの乗り心地はバスよりずっと快適ですし座席にUSBの充電器まで常備されていました。

40分ほどで桃園空港第1ターミナル駅に到着です。さすがにバスより早くて快適であり、やはり今後は深夜便でもない限りは、空港と市内の往復はこれで決まりでしょうね。

桃園空港フードコートで間食

空港で荷物をカートに乗せて9時20分にはバニラエアの窓口に着いたものの、自分の便の受付開始まではまだ1時間以上あります。このため時間つぶしを兼ねカートを押したまま地下のフードコートに移動することにしました。やや中途半端な時間ですが、今朝はパン1個しか食べていなかったので、いささか小腹がすいています。

バーガーキングに入り、自分はブラックペッパーセットを注文。妻はバーガーまでは必要なかったようなので、ドリンクだけを注文して自分のセットのポテトをつまみました。

セットとドリンクで227元。

30分ほどかけて、のんびり2人で食べたり飲んだりしながら時間を潰しました。

それでもまだバニラエアの窓口が開くまで1時間ほどあるので、なおも時間を潰します。



時間潰しがてらに、2人のスマホのSIMを交換してみました。

今回、自分と妻のために空港で亜太電信のSIM2枚を事前に購入して双方のSIMフリースマホにセットしたものの、自分のスマホは問題なく通信ができたものの妻のスマホでは通信ができなかったという事態が発生していたのでした。

しかしSIMを交換しても、結果は変わらず。SIMを通販で買うときにあまりよく調べませんでした。自分のファーウェイのSIMフリーのスマホよりも、妻のシャープのSIMフリーのスマホのほうが対応通信帯域が少ないとかいう問題があったのかもしれない。

出国の列

10時半になったので、そろそろいいかなと思いつつフードコートを出てバニラエアのチェックインカウンターに行きます。

しかしチェックイン手続きは始まってはいたもののカウンターは長蛇の列。まあ、普通に並んで待ち、30分ほど待ってからチェックイン終了。

その足で出国ゲートに向かうと、また長蛇の列。

まあ、待つしかありません。

それから20分ほどかけてセキュリティを通過して、さらにそれから20分ほどかけてイミグレを通過しました。列また列。

そんなわけでこれだけ余裕を持っていた筈なのにゲートに到着したのは正午過ぎで、すでに12:35に出発の便の搭乗が始まっていたので、そのままゲートを通過して搭乗。

あとは帰るだけです。



帰国

なにげともなく6時間ほどのフライトを終え、17時10分に成田空港に到着しました。一瞬でイミグレを通過して、17時40分には荷物も回収して空港を出られる状態に。

空港ではまともな昼食を取れず、機内食も特に注文をしなかったもので、着いた頃には割と空腹を感じていました。家に帰るのは19時は回るでしょうし、もちろん今夜夕食を妻に作らせる予定もありません。

このため空港のフードコートで夕食にしてから帰宅することにしました。座席を確保してから、少し検討したうえで自分はテリヤキチキン丼を注文。

空港のフードコートなのでコスパはいまいちですし、特筆したいことは特にありません。

食事を終えて 18 時 20 分に京成線のホームに移動。

少し待って 18 時 41 分には京成線のアクセス特急に乗車。



そして 19 時半にはもう青砥駅に到着してしまいました。

荷物もありバス乗り場や待ち時間もよく分からないので、自宅まで青砥駅前でタクシーを拾うことにしました。これが青砥駅から自宅までの初のタクシーだったので、一体いくらかいかかるのかなぁ 2 千円くらいで済むかなぁと内心覚悟をしていたのですが、ものの 10 分ほどの千円くらいで到着してしまいました。

つまり新小岩駅から自宅までタクシーを利用するのと、ほとんど変わりません。

ますます「今後は成田空港を利用する場合はもはや京成の青砥駅経由以外はありません」

という思いを強く抱きつつというより、むしろ**何で俺はこれまで JR で成田空港まで行っていたのだ**という教訓を得つつ、今回の台北夫婦旅行は終了しました。

この時点では気がついていなかったのですが、実は成田空港だけでなく「羽田空港」に行く場合にも、JR で新小岩駅から浜松町に行って浜松町からモノレールで羽田空港に行くよりも、青砥駅から羽田空港まで直通の京成線を利用した方が早くて安いと判明。加えてこれまでは、新小岩駅から帰りはタクシーを使うことが多かったものの、行きはしばしば新小岩駅まで重いスーツケースを押しての**徒歩で**行ってたんですよ（笑）。これも自宅のすぐ近くで京成バスに乗り青砥駅まで簡単に行けることを後に知ります。総じてこれまでは通勤定期券の関係もあって「JR 新小岩」を行動の起点に考え「京成青砥駅」の存在を知らなかったための失敗でしたが、総じてご飯がおいしく楽しい旅行ではあったものの、あるいはこれが今回の台北旅行最大の収穫かもしれません。

（完）

今回訪れた主なスポットは、こちらになります。

台北はMRTが発達しているので、市内移動はほぼMRTで最寄り駅に行くだけでした。



ぶらり台湾5泊6日 (v1.00)

発行：新小岩マジック <https://twitter.com/kondohi>

発行日：2018年12月29日

印刷所：日光企画

本書の文章や写真などの無断転載を禁じます

筆者（ひろじ）について：

<https://twitter.com/kondohi> （ツイッター。最近はこちらメインです）

<http://otakutalker.diarynote.jp/> （ダイアリーノート。マジック関連はここで）